

特定外来生物図鑑

オオキンケイギク(キク科)



花期は5月～8月。美しい花が密集して咲く。



花びらの先に鶏冠状のギザギザがある。



茎の高さは30～70cm。束になって生える。

地下茎はよく発達し、そこから繁殖する。



葉の表裏とも荒い毛が生える。

北米原産。道路沿いや河原などに大きな集団となって広がる。美しい花が密集して咲く様子は見事で、荒地でも生育することから、以前は道路まわりの修景によく利用され、栽培する人も多かった。しかし、旺盛な繁殖力で他の植物を締め出し、生態系に悪影響を及ぼしかねないため、特定外来生物に指定され、規制や防除対象となった。(多年草)

特　　徴

花：キバナコスモスに似ており、花びらの先が鶏冠状にギザギザになっている。花期5月～8月。

茎：高さは30～70cm。かたまって生える。

葉：茎葉は対になって生える。根元から出る葉には長い柄がある。表裏とも粗い毛がある。

根：地下茎はよく発達し、そこから繁殖する。

種：種子の周囲に円形状の羽があり、風に乗って飛散する。

生 態

5月～8月に黄色の花が密集して咲く。草刈で刈られた後は、数は少ないながら二番草が咲く。8月中旬から実をつけ、羽のある種子を落とすが飛翔能力は高くない。地下茎が発達し、そこから束になって茎が伸びるので、地上部分を刈り取っても同じ場所に生えてくる。

拡散の原因

明治時代に園芸植物として導入され、美しくて強いことから「ワイルドフラワー」と呼ばれる緑化の材料として多用され、全国に広がった。栽培する人も多く、花が美しく目立つので、草刈りの際にわざわざ刈り残されるなどして、雑草の中でも特別扱いされてきた。

被 害

密集して生え、周辺にある他の植物を締め出してオオキンケイギクだけで独占してしまう。

駆除方法

花の部分と地下茎を除去する。

花期には根元を持って引き抜き、ビニール袋に入れて焼却処分するか枯死させる。

開花の後半期から種子をつけた時期は、種子を拡散させないようビニール袋に入れて焼却処分する。

地下茎で増えるため、地上部分を刈り取っただけでは生え続ける。しかし、数回に渡って地上部分を刈り続ければ、地下茎を弱らせる効果がある。